四人組でケニアに滞在したのですが、私達の旅のコンセプトは、ケニアの貧困層の生活レヴェルと富裕層のそれとの両方を体感する、といったものでした。ケニア第四の都市エルドレットに約二週間、首都ナイロビに約一週間、マサイマラ動物保護区(サファリ)に数日間滞在しました。

まず約二週間滞在した、ケニア第四の都市エルドレットについて。自分たち以外はほぼ全員が黒人という状況でした。中でも特にジャッショという農村でのホームステイが特に印象に残っています。土のうが利用された村であり、実際に土のうを用いた作業にも参加することが出来ました。広大な自然、素朴なご飯、たくさんの子供たち(私が滞在した家庭には六人の子供がいました)、適当だけどオープンでフレンドリーな村人たち。電気など通っていなくて、トイレや入浴設備も非常に簡素なものでしたが、面白かったし、貴重な体験が出来たと思います。他にも、市場に行ったり、地溝帯で景色が良い所に連れて行って頂いたり、より商品価値のあるマンゴーを農家に普及させるためのプロジェクトの話し合いを見学させて頂いたり、ディスコに連れて行って頂いたり、ＮＧＯの事務所を見学させて頂いたり。滞在していて楽しい場所だったし、裕福でなくても幸せに生きることが出来るということを痛感した場所でもありました。

次に一週間ほど滞在した、首都ナイロビについて。スラムの子供たちのための学校を経営している、日本人の牧師の方たちに案内して頂いた、郊外のスラム(貧困層)と、都心部の高層ビルや道を走る高級車(富裕層)、の格差は非常に大きなものであったことが特に興味深いものでした。民衆のための職が少ないためでしょうか、良く分からないですけど。その他に、ナイロビ大学在学中の方に大学を案内していただいたり、買い物に行ったり。治安が悪いため、気楽に動き回ることはできなかったです。

次に数日間滞在したサファリについて。観光に来ていたのは、ヨーロッパ系の人やアジア系の人ばかりであったのが面白かったです。たくさんの動物を見ることが出来ました。これぞ観光、という感じでした。

去年の暴動以来治安が悪化しているケニアを民衆の目線から旅行することは、多くの方々の多大なる協力なしには不可能なものであったと思います。アフリカの面白さ(問題点も含め)を体感することが出来たし、ボランティアの在り方を考えさせられるものでもあったし、また、自国を観察する眼も異なるものになりました。民族や宗教等、日本人に馴染みのない事柄について考えさせられました。大学一年生にして非常に貴重な経験が出来たことを嬉しく思っています。この経験をこれからの人生にも活かしていきたい、そんな感じです。ハクナマタタ！